

## 夢づくり協働推進事業の実施状況 14

### 事業名

ぶどう産地の再構築による地域活性化

### 事業の概要

井原市青野地区を中心としたぶどうの産地は、かつてはベリーAで西日本一の生産地であり、「**井**ぶどう」（まるいぶどう）と呼ばれ名声を博していた。しかし、消費者ニーズの変化により、大粒系への転換が急速に行われ、ベリーAの栽培面積は激減した。あわせて、「葡萄浪漫館」の新設により市場併用型の産地に変わり、多種多様な大粒系品種が栽培されている。今後さらに生産を伸ばすためには市場出荷量を増やす必要がある。

また、栽培者の高齢化も進んでおり、今後の栽培者の担い手をいかに確保していくかも喫緊の課題である。

そこで、生産組織（生産者）や市、農協等と協働し、産地目標・戦略を再構築することにより、産地及び地域の活性化を図る。

### 協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
井原市ぶどう部会 JA岡山西・井原市 県・普及センター職員	事業の実施主体 事業の運営支援、協力 事業の運営支援、協力

### 実施状況

#### 1 産地活性化についてのアンケート実施

部会員に対しての意向調査では、産地の活性化、品種の検討、労働支援組織の設立などが課題であった。

#### 2 産地活性化対策会議の開催

部会員やJA、市、県と産地活性化会議を開催し、労働支援組織の設立や産地活性化方策について検討した。

##### (1) 労働支援組織の設立について

部会員と協働して、労働支援組織（会員29名、支援時間1,029時間）を設立し、農家（13戸）の栽培支援を行った。

##### (2) 新規参入者受入について

新規栽培希望者を現地に案内し、1名の短期体験研修を開催した。

##### (3) 推進品種の選定について

遅出しぶどうの品種を絞るとともに、遅出し栽培技術の検討を行った。

### 3 ぶどう栽培経営モデルの作成

現地事例調査を行い、タイプ別の経営モデルを作成し、冊子に成果をとりまとめた。

#### 成果・効果

- 1 労働支援組織を設立し、その支援を活用することで、ぶどう栽培者の労働力軽減ができて、栽培継続ができて、産地規模の減少を抑える仕組み作りができた。
- 2 ぶどう栽培経営モデルを提示して、今後のぶどう産地の経営パターンが広がり、産地の復興、活性化に寄与できる。

#### <参考>

##### 活動状況



産地活性化対策会議の開催



労働支援隊の活動反省会



労働支援組織の活動状況